

**基調報告**

国立中央図書館の業務の現況と将来計画  
- 21世紀、変化の中心に立つ国立中央図書館 -

国立中央図書館閲覧奉仕課長  
シン・ヒョンテ（申 鉉泰）

1. はじめに

国立中央図書館は、知識基盤社会と文化福祉国家実現を発展目標とする、政府レベルの“図書館発展総合計画”によって、2002年の1年間は、名実共に国家知識情報センターとしての役割を強化するための多様な努力に力を傾けました。

国立中央図書館では、変化する図書館パラダイムに積極的に対応するために、電子出版物をはじめとする多様な蔵書の拡充と保存事業、国立電子図書館建設基本計画策定、図書館情報化の持続的推進、情報サービスの高度化とこれを基盤にした国内外図書館との協力促進事業などはもちろん、件名標目表の開発と共に出版時図書目録（CIP）制度を施行する等、注目すべき成長を遂げた1年でした。

今回の韓国国立図書館業務交流に際し、昨年1年間に国立中央図書館が推進した主要な業務の内容と今後の推進計画について、お話しできますことを嬉しく思います。

2. 2002年の主要業務推進状況

2.1 図書館蔵書の拡充

2002年には納本490,046冊をはじめとして購入、寄贈、自館作成などを通じて496,235冊の国内出版国家文献資料が収集されました。海外から韓国関係資料1,365冊を影印の方法で収集し、米国・日本などから22,608冊を購入したのをはじめ、交換・寄託、受贈によって33,644冊を収集しました。その結果、2002年末現在、国立中央図書館の総蔵書数は4,385,873冊に達しました。

## 2.2 資料の保存管理

国立中央図書館は、国家文献保存センターとしての役割を存分に果たすために、資料の保存管理にも多くの努力を傾けています。2002年には資料保存専門担当者を採用し、保存実験及び処理設備を備えた修補・復元室を設置する等、資料保存環境改善と、科学的で体系的な資料保存事業を推進しています。

また、原本資料のメディア変換と古書の保存容器作成と修復、所蔵資料の燻蒸消毒事業等を継続的に推進するとともに、専門職員養成のための実務者中心の海外研修を実施する等、重要国家文献の永久保存のための体制確立を目指しています。

## 2.3 図書館情報化

2002年は、2000年3月に発表された“図書館情報化推進総合計画”の第1段階の事業を締めくくった年で、図書館のデジタル環境確立とプログラム開発、コンテンツ拡充事業など、情報化の基盤作りに重点をおいて事業を推進しました。その結果、300万件の書誌データ、1,090万件の所蔵データ、91万冊の目次情報、27万冊の原文情報データベース、32,926種の逐次刊行物巻号情報などのコンテンツを拡充し、インターネットを通じてサービスを提供し、多くの国民が、図書館が所蔵する情報に容易にアクセスできるようにしました。また、全国の図書館業務をより一層効率化し、対国民情報サービスの水準をさらに向上させ、出版界の、新刊資料の効果的な広報による販売促進に寄与するためにCIPシステムを開発、試験的に運営しました。さらに、視覚障害者用国家電子図書館の構築により、情報弱者である視覚障害者等の情報格差と機会不均等の解消のために努力しました。

## 2.4 利用者サービス提供

2002年には、国民の学問と研究を支援して、多様で広範囲なサービスを提供するために、利用者中心のサービス運営体制の整備と、ウェブサイトを通じて書誌・目次・原文情報を提供する一方、電子ジャーナルなど国内外の学術データベースを購入し、学術情報及び原文情報全文提供機能を強化しました。

また、図書館資料の効率的利用を活性化するために、主題別、形態別に区分された資料室を運営しており、夜間にも資料を利用できるように、夜間図書館制度を導入しています。インターネット、ファックス、E-mailなどを活用した資料の申し込み及び郵送複写サービスも提供しており、年間の開館日は323日、利用者総数は1,122,338人で、1日平均3,477人が来館して利用したことになります。合わせて多様な文化行事も活発に推進し、図書館音楽会開催、駐韓外国公館主催の展示会を開催する等、開かれた文化空間としての役割を遂行するとともに、図書館文化学校を開設し、保護者の皆さんに子女のための読書指導と文化教育分野の講座を実施しました。

## 2.5 専門職員養成のための司書教育

2002 年は、知識情報化時代への対応能力を向上させるための専門教育、情報化教育を強化して、創意的思考で効率的に職務を遂行する能力を兼備した専門司書育成を、教育訓練の目標に設定し、図書館の管理運営能力を育成するための分野別専門教育の拡大、専門性向上のための実務中心の体系的教育訓練を実施する等、図書館職員に対する教育訓練プログラムを強化しました。また、共通専門教育、選択専門教育、公立・私立図書館の均衡のとれた発展と業務電算化にともなう標準化を図るための教育過程など、全部で 26 の課程を運営し、1,250 名の図書館職員が教育研修プログラムを修了しました。

## 2.6 国家書誌（全国書誌）刊行及び国際標準図書番号制度運営

国立中央図書館は、国内出版資料の納本機関として、国家文献に関する書誌情報の標準化と国家書誌作成の中心機関です。2002 年度にも国家書誌である『大韓民国出版物総目録』と、毎月納本された国家文献に関する情報提供のための『納本月報』を刊行しました。また、文献情報学理論と実務関連研究論文を掲載する季刊学術誌『図書館』と、図書館界総合情報誌『図書館界』などを刊行して全国の図書館に配布するとともに、出版物及び文献情報流通の効率化を追求するために、国際標準図書番号（ISBN）と国際標準逐次刊行物番号（ISSN）を付与する事業も継続的に遂行しています。

## 2.7 国内の図書館協力

国立中央図書館は、地域代表図書館 16 館を含む全国のあらゆる公共図書館で構成される公共図書館協力ネットワークの中央館としての役割を果たしています。

2002 年度は公共図書館資料支援、読書教室、運営支援を行いました。また、公共図書館標準資料管理システム（KOLAS）を普及させたほか、民間業体が構築する商用オンライン出版物 2,298 種を、国家電子図書館を通じて公共図書館に提供しました。

さらに、国際協力事業としては、94 か国 284 館の図書館との資料交換及び韓国学資料支援、アレクサンドリア図書館への資料寄贈、文献複写・レファレンスサービスを通じた国際相互貸出サービスを行いました。それとともに、国際図書館連盟（IFLA）総会、国立図書館長会議（CDNL）などの国際会議に参加して、国際図書館界の最近動向の把握や情報交換も活発に推進し、日本の国立国会図書館、中国国家図書館、シンガポール国立図書館と業務及び人的交流を実施して成果をあげています。

## 2.8 件名標目表の開発

国立中央図書館では、国家書誌作成の基盤を構築し、主題でのアクセスにより検索の効率性を提供するため、あらゆる主題分野を含むシソーラス形式の「国立中央図書館件名標目表」を開発しました。1994 年、件名検索用語集が開発された後は、継続的な追加作業と活用がなされず、発展させられなかったのですが、主題分類に対する図書館界の切実な二

ーズに応えるため、2002年に同作業を推進・完了させました。

事業推進内容としては、件名標目20万語の構築、件名への分類記号付与、件名標目表システムの開発などであり、開発された件名標目表は2003年から国立中央図書館で優先的に試行・適用した後、段階的に公共・大学・専門図書館など全国の図書館で活用できる方を整備する計画です。

## 2.9 国立デジタル図書館建設基本計画策定

国立中央図書館が2008年開館を目標に意欲的に推進している国立デジタル図書館建設事業が、本格的に軌道に乗り始めました。2002年2月、国立デジタル図書館建設諮問委員会を結成し、建設基本計画策定のための委託事業に着手して、12月に完了しました。策定した基本計画では、国立デジタル図書館の性格及び機能設定、情報資源運営基本計画、図書館管理・運営計画、組織・人材開発基本計画、施設基本構成、設計指針書作成内容など、国立デジタル図書館の建設と運営に関する全般的な方針を提示しました。

## 3.2003年度主要業務推進計画

2003年度業務推進のための基本方向は、1) 知識情報専門サービス体制の確立、2) 国家知識情報センターとしての役割強化、3) 資料の効率的収集、保存及び国内外に対する協力増進、と設定しました。

はじめに、知識情報専門サービス体制を確立するためには、主題別専門司書の養成、実務教育訓練の強化、デジタル時代に対応するサイバー教育の実施、「図書館研究会」活性化及び海外実務研修などを通じた司書職員の専門性強化と、図書館サービスの質的向上に向けた条件整備を推進する計画です。

次に、国家知識情報センターとしての役割を強化するためには、知識情報コンテンツの拡張及びサービスの活性化、国家資料UNICODE体制構築、文献情報処理標準化ツールの開発(統合用KORMARC形式)、CIP制度運営の活性化など、図書館情報標準化事業を推進する予定です。

最後に、資料の効率的収集・保存及び国内外の協力増進のためには、国内資料の納本収集強化、オンライン出版物の効率的収集方法の考案、外国資料収集の拡大、国家文献資料の科学的保存管理のための「資料保存処理センター」構築、韓国本古典籍の解題作業などを推進します。また、国内図書館協力ネットワークの構成拡大、館種別協議体の構築、各種研究活動の強化なども推進します。国際交流のためには、外国図書館との交流協力を拡大し、国際会議及び国際機構への参加を通じて交流活動を展開する計画です。

#### 4. おわりに

ここまで、国立中央図書館を中心として、2002年に遂行した主要事業と、今年遂行しようとしている主要計画について述べてまいりました。昨年1年間の、韓国図書館界にとって特別な意味のあることとしては、政府が総体的な中長期図書館振興政策を盛り込んだ図書館発展総合計画の策定を挙げることができます。この計画は、情報化時代に即応した図書館の役割と機能の見直し、図書館館種を超えた協力プログラム開発による図書館運営の活性化、図書館の組織・機能・人材・プログラムなどの側面からの現状分析を通じた改善方法の策定、最終的には図書館及び読書振興法改正など、図書館発展の法律・制度的改善の土台となりました。

国立中央図書館では、これからも国家を代表する図書館として、このような政府の図書館発展への意思を具体化する先導的役割を忠実に遂行するために、絶えず努力していきます。このたびの第7回韓日国立図書館業務交流も、このような努力の一環であると考え、本日の国立中央図書館の2002年業務実績と2003年計画に関する概略的報告が、相互理解に多少なりと役立つことを期待いたします。

御存じのとおり、2006年には大韓民国・ソウルにおいて国際図書館連盟（IFLA）年次大会が開催されます。この大会の準備に共同であたっている国立中央図書館と韓国図書館協会は、この大会を契機に大韓民国図書館界はもちろん、日本を始めアジアの全国家が心を一つに協力する機会となり、アジアの図書館発展に寄与することができるよう希望しています。すでにIFLA大会を誘致した経験をお持ちの日本図書館界からも、「2006年IFLAソウル大会」が成功裏に開催できるよう、多くの御支援と御参加を賜るようお願いいたします。ありがとうございました。